

第6次 玖珠町学力向上推進計画

（令和7年度～9年度）

令和7年3月

玖珠町教育委員会

目 次

1	はじめに	・ ・ ・ ・ P 3
2	第 5 次学力向上推進計画（令和 4 ～ 6 年度）の成果と課題	・ ・ ・ ・ P 3
	（ 1 ） 学力向上に係るこれまでの取組 ～令和 6 年度の取組を中心に～	
	（ 2 ） 各学力調査の状況	・ ・ ・ ・ P 5
	①大分県学力定着状況調査結果の推移	
	②全国学力・学習状況調査結果の推移	
	③玖珠町学力調査結果の推移	
3	令和 7 年度から 9 年度までの学力向上に係る目標	・ ・ ・ ・ P 8
4	目標達成のための重点課題	・ ・ ・ ・ P 8
5	具体的行動と達成（取組）指標	・ ・ ・ ・ P 8
	（ 1 ） 学校の組織的な指導力の向上	
	（ 2 ） 基礎・基本の定着と活用力の向上	
	（ 3 ） 教職員の授業力の向上	
	（ 4 ） 地域住民との協働による教育力の向上と高校までの一貫した学力向上対策	

1 はじめに

本町は、「知・徳・体のバランスがとれた子どもの育成」、「一人ひとりのニーズに応じた教育の充実」、「家庭・地域に信頼され、協働して子どもを育む学校教育の推進」、「学校間・校種間のきめ細やかな連携」、及び「安心・安全な教育環境の確保」の5点を学校教育の重点として掲げ、その実現に向けて様々な教育施策に取り組んでいます。

中でも、学力向上については、平成21年11月に「第1次玖珠町学力向上推進計画（平成22年度～24年度）」を策定して以来、平成25年1月に第2次（平成25年度～27年度）、平成28年1月に第3次（平成28年度～30年度）、平成31年2月に第4次（令和元年度～3年度）、令和4年3月に第5次（令和4年度～6年度）と、継続的に計画を策定し、具体的な取り組みを推進してまいりました。

この度、第5次学力向上推進計画の最終年度を迎えるにあたり、これまでの取り組みの成果と課題を明らかにし、新たに令和7年度から令和9年度までの「第6次玖珠町学力向上推進計画」を策定いたしました。本計画に基づき、本町児童生徒の更なる学力の向上を目指してまいります。

2 第5次学力向上推進計画（令和4年度～令和6年度）の成果と課題

（1）学力向上に係るこれまでの主な取組 ～令和6年度の取組を中心に～

●授業力向上アドバイザーの活用

令和6年度は、くす星翔中学校に授業力向上アドバイザー1名を配置し、配置校及び町内の若手教員の育成を担い、教員一人ひとりの課題解決に向けた指導を行いました。配置校においては国語の模範授業を行い、若手教員を中心に質の高い授業を公開しました。若手教員の授業観察においては、事前に授業者と打ち合わせを行い、ポイントを絞って評価することで、段階的な指導ができました。事後の指導では、授業に関することだけでなく、生徒理解、保護者への働きかけ、他の教員との協働などについても相談に応じ、若手教員の精神的な支えとなりました。

●小学校教科担任制推進教員の活用

小学校教科担任制推進教員は、塚脇小学校に1名を配置し、高学年における教科担任制を推進しました。具体的には、5・6年生の国語と算数、3～6年生の理科で実施しました。教員の専門性を生かした授業展開が可能となり、児童からは「授業の雰囲気が変わって良い」といった肯定的な声が聞かれました。また、同一学年で同じ内容の授業を行うため、教材研究により時間をかけることができ、授業改善につながりました。さらに、学年全体を複数の教員で見守る体制ができたことで、児童の変化に気づいた際に即時に情報交換し対応することが可能となり、生徒指導の面でも有効でした。

●算数・数学確認テストの実施

令和6年度も、町独自の算数・数学確認テストを年4回実施しました。この確認テストは開始から15年目を迎えました。各学校で組織的な指導や結果の活用が進み、担当者による問題の検討や情報交換も行われています。特に小学校においては、全国学力・学習状況調査や大分県学力定着状況調査の結果にも、その成果が現れています。

●英語確認テストの実施

英語確認テストを、くす星翔中学校の1年生・2年生およびくす若草小中学校の7年生・8年生を対象に実施しました。実施回数は、1年生（7年生）は年4回、2年生（8年生）は年5回（4月、6月、10月、12月、3月）です。語彙の定着を目指し、回を重ねるごとに各校で取り組みに工夫が見られました。

●図書館活用教育の充実

「活用力の向上」を図る手立ての一つとして、平成25年度から図書館活用教育の充実に努めています。令和6年度は、以下の点に取り組みました。

- ① 図書館活用授業年間計画を各校の教育課程に明示し、意図的・計画的に図書館を活用した授業を実践しました。
- ② 新聞配置に係る予算を措置し、読書環境の整備に努めました。今後も、図書館を活用した授業の実践を推進するとともに、その質の向上を目指します。

●寺子屋学習

令和6年度は、町内4校（森中央小学校、塚脇小学校、北山田小学校、八幡小学校）で実施しました。実施校によって参加者数に差が見られ、参加者募集の方法や対象学年の設定が今後の課題となっています。また、学習を支援するサポーターの確保も喫緊の課題です。

●ステップアップ講座

夏季休業中に3日間程度、小学4・5・6年生を対象とした算数及び国語の補充学習講座「ステップアップ講座」を実施しました。各学校の教職員が組織的に関わることで、自校の学力課題を改めて認識し、授業改善につなげることができました。また、中学生が学習サポーターとして参加したことは、小中連携の推進に加え、地域の一員として出身校での学習支援を経験するというキャリア教育の観点からも、有効な取り組みとなりました。

●問題データベースとAIドリル教材の活用

令和6年度は、問題データベース（小学校：算数、中学校：国語・社会・数学・理科・英語）とAIドリル教材（小学校・中学校：スマイルネクスト、くす若草小中：スタディサプリ）を、各学校で授業内容の定着や宿題などに活用しました。今後もGIGAスクール構想の推進の中で、これらの教材の活用充実に努めていきます。

●研究指定校等の取組

令和6年度は、塚脇小学校とくす星翔中学校が、文部科学省の「リーディングDXスクール事業」の指定を受け、先進的な教育実践を行うとともに、その成果を町内外に広く公開しました。

また、「特色ある学校づくり推進事業」では、小学校5校（森中央小学校、塚脇小学校、小田小学校、北山田小学校、八幡小学校）が、それぞれ「学びに向かう学校づくり（知）」「道徳（徳）」「体育（体）」「人権」のいずれかのテーマについて研究を深めました。

●保護者・地域連携の取組

現在、町内全ての町立学校において学校運営協議会を設置し、地域住民や保護者等の意見を積極的に学校運営に取り入れる場を設け、信頼される開かれた学校づくりに努めています。子どもたちの健全な心身の発達や更なる学力の向上には、保護者・地域の力が欠かせません。今後も、保護者・地域との連携を強化し、学校と地域の教育力が共に向上するような具体的な取り組みの充実に努めていきます。

●ICTを活用した教育の充実

国のリーディング DX スクール事業に指定された塚脇小学校とくす星翔中学校を中核として、「校務の DX」「研修の DX」「授業の DX」を連携させながら、クラウド活用を基本とした ICT 利活用を推進してきました。国が進める GIGA スクール構想は、端末更新を経て「セカンド GIGA」と呼ばれる新たな活用段階へと移行しつつあります。この取り組みが教職員の働き方改革や子どもたちの個別最適な学びの推進に寄与するよう、ICT 支援員等と連携しながら進めていきます。

(2) 各学力調査の状況

①大分県学力定着状況調査結果の推移（偏差値）

	小学校5年			中学校2年				
	国語	算数	理科	国語	社会	数学	理科	英語
R 6	51.2	53.8	49.0	50.5	48.3	48.9	47.5	45.7
R 5	52.5	55.3	51.5	53.3	50.6	54.7	50.5	51.7
R 4	50.9	55.4	52.0	49.4	48.0	48.8	48.9	48.1
R 3	52.9	55.3	52.6	51.6	51.2	50.8	49.9	49.2
R 2	52.1	55.0	51.7	53.5	50.6	52.0	50.8	52.5

※色付きは、偏差値 50 以上。

令和 6 年度の平均正答率が 50 %未満の割合

小学校 → 国語：10% 算数：9.6% 理科：25%

中学校 → 国語：15% 社会：54% 数学：51% 理科：49% 英語：77%

- 小学校においては、令和 2 年以降、ほぼ全ての教科（国語・算数・理科）で偏差値 50 を超えている。
- 中学校においては、令和 2 年度及び令和 5 年度は全ての教科（国語・社会・数学・理科・英語）で偏差値 50 を超えている。
- 令和 6 年度調査において、平均正答率が 50 %未満の割合が中学校 2 年の 4 教科（社会・数学・理科・英語）で 50 %を超えている。とりわけ、英語については 77 %と非常に多い。

②全国学力・学習状況調査結果の推移（平均正答率）

	小学校 6 年		中学校 3 年	
	国語	算数	国語	数学
R 6	63 (-6)	62 (-1)	56 (-2)	49 (-1)
R 5	67 (-2)	67 (+3)	64 (-5)	41 (-8)
R 4	66 (±0)	68 (+4)	71 (+2)	49 (±0)
R 3	67 (+1)	74 (+4)	65 (-1)	52 (-5)
R 1	72 (+5)	72 (+5)	78 (+4)	64 (+3)

* () 内は、県平均との比較 (* R 2 年度は、コロナ感染症対策により実施されなかった)

令和 6 年度の平均正答率が 50% 未満の割合

小学校 → 国語：33.0% 算数：34.0%

中学校 → 国語：52.5% 数学：53.4%

- 小学校において、令和元年度と令和 3 年度は、大分県平均を全ての教科で上回った。
- 小学校算数においては、大分県平均を 4 ポイント前後上回っている。(R6 年度を除く)
- 小学校において、令和 6 年度の国語で県平均を大きく下回った。
- 中学校において、令和 5 年度に国語・数学ともに大きな落ち込みが見られたが、令和 6 年度には回復傾向にある

③玖珠町学力調査結果の推移（平均正答率） * (斜体) は、目標値を下回っている。

(注) 目標値：到達しておくべきラインを正答率で表したもの

【小学校】

		小 1		小 2		小 3		小 4		小 5		小 6	
		国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
R 6	玖珠	74.2	84.3	83.7	79.7	64.5	71.9	69.0	69.8	73.9	67.0	67.9	76.9
	目標	72.8	80.3	74.2	69.3	62.2	70.3	66.7	66.5	66.2	61.0	64.8	66.5
	差	1.4	4.0	9.5	10.4	2.3	1.6	2.3	3.3	7.7	6.0	3.1	10.4

R 5	玖珠	81.0	89.2	80.1	71.9	68.6	77.1	70.6	71.6	74.2	69.8	69.6	82.3
	目標	73.7	77.0	75.0	71.0	67.6	68.4	63.8	64.2	68.3	60.6	64.0	71.1
	差	7.3	12.2	5.1	0.9	1	8.7	6.8	7.4	5.9	9.2	5.6	11.2
R 4	玖珠	76.7	88.7	85.3	71.8	79.4	76.8	73.4	74.9	78.6	71.5	73.9	81.8
	目標	73.5	79.6	77.7	69.7	72.2	68.9	69.0	66.3	69.8	60.0	69.6	68.8
	差	3.2	9.1	7.6	2.1	7.2	7.9	4.4	8.6	8.8	11.5	4.3	13

【中学校】

		中1					中2				
		国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
R 6	玖珠	60.5	47.8	56.2	38.7	39.2	57.9	39.8	41.1	29.4	38.2
	目標	59.9	51.0	55.2	52.8	61.1	55.6	47.2	51.7	50.7	59.5
	差	0.6	-3.2	1.0	-14.1	-21.9	2.3	-7.4	-10.6	-21.3	-21.3
R 5	玖珠	59.9	53.7	50.5	53.6	44.6	74.3	46.5	49.0	55.3	48.5
	目標	57.3	58.3	56.4	60.5	54.4	63.5	46.0	52.8	55.7	50.6
	差	2.6	-4.6	-5.9	-6.9	-9.8	10.8	0.5	-3.8	-0.4	-2.1
R 4	玖珠	63.9	62.3	55.6	61.8	55.3	68.5	41.1	42.8	45.1	49.3
	目標	55.8	60.3	53.4	56.0	54.0	64.3	50.2	53.3	50.0	54.2
	差	8.1	2	2.2	5.8	1.3	4.2	-9.1	-10.5	-4.9	-4.9

- 小学校では、ここ数年すべての学年・教科において目標値を上回り、成果が現れている。
- 小学校算数では、すべての学年で目標値を1～10ポイント以上上回っており、令和6年度の2年生・6年生は10ポイント以上上回っている。
- 中学校では、令和6年度の1年生・2年生ともに社会・理科・英語で目標値を下回っている。特に、1・2年生の英語は20ポイント以上下回っている。

3 令和7度から令和9度までの学力向上に係る目標

- ★「全国学力・学習状況調査」において、全国平均正答率を上回る。
- ★「大分県学力定着状況調査」において、大分県平均正答率を上回る。
- ★「玖珠町標準学力調査」において、「目標値」を上回る。
- ★「各種学力調査」において、正答率50%未満の児童生徒の割合を小学校で10%未満、中学校で20%未満にする。

4 目標達成のための重点課題

- ① 学校の組織的指導力の向上
- ② 基礎基本の定着と活用力の向上
- ③ 教職員の授業力の向上
- ④ 地域住民との協働による教育力の向上と高校までの一貫した学力向上対策

5 具体的行動と達成（取組）指標

①学校の組織的な指導力の向上

重点的取組（施策）	具体的内容	達成指標(□) 取組指標(■)
全教職員参加による学力向上プランの策定・実施	○PDCAサイクルに基づいた学力向上プランの作成 ○学力調査等を踏まえた学力向上プランの作成・見直し ○定着度の数値目標の設定及びプランの実施状況の公表	□数値目標を明示した学力向上プラン作成校(100%) □プラン実施状況公表校(100%)
学力向上プランと連動した教育課程の編成	○学校の教育目標実現に向けた具体的目標の明確化 ○学力向上に係る重点的取組が各教科・領域等において具体化されている教育課程の作成 ○教育課程の適正な管理運営と評価及び改善	□全教科授業実施率 100%以上の学校(100%)
改善のための学校評価の充実	○実現可能な焦点化された重点目標の設定 ○重点目標に即した焦点化された重点的取組の設定とそれに基づく学校全体での取組 ○検証可能な達成指標の設定と客観的な成果の振り返り ○自己評価書及び学校関係者評価書の作成・提出・公表	□3～4項目に焦点化された重点目標・重点的取組を設定している学校(100%) □達成指標が数値化されている学校(100%) □自己評価書を公表した学校(100%)
複数の教職員が関わる弾力的指導体制の構築	○TTや習熟度別指導の活用 ○小学校における教科担任制等の積極的導入 ○複数の教職員が関わる補充学習の実施	□複数の教職員が関わる授業実施校(100%) □複数の教職員が関わる補充学習実施校(100%)

小中連携の強化	☐ 小中連携会議の実施 ☐ 互見授業・相互参加授業の実施 ☐ 小学校間の指導内容の共有・統一 ☐ 学力向上に係る小中共同指導項目の設定	☒ 連携会議(年3回) ☒ 互見授業・相互参加授業(年3回) ☐ 共通指導項目設定校(100%)
---------	--	---

②基礎・基本の定着と活用力の向上

重点的取組（施策）	具体的内容	達成指標（ ☐ ） 取組指標（ ☒ ）
図書館活用教育の推進	☐ 「図書館教育計画」に係る留意点（町統一）に基づいた教育課程の編成と点検・修正（例：図書館を活用する授業の計画を明示 等）	☐ 町統一の留意点に基づいた図書館教育全体計画作成校(100%) ☒ 図書館を活用した授業 （小学校：各学年3単元以上） （中学校：国語2単元、他教科・各学年1単元以上）
個に応じたきめ細かな指導の充実	☐ 習熟度別指導や複数教員による指導の積極的な活用 ☐ 個の学習状況を的確に把握する手立ての工夫（ノート・学習プリント・小テスト・各種学力調査等の活用） ☐ 配慮を必要とする児童生徒への対応（特別支援教育支援員の配置）	☐ 個の学習状況の把握方法及び個に応じた指導の具体的な取組を学力向上プランに明示している学校(100%)
補充学習の充実	☐ 長期休業中等の補充学習の実施（ステップアップ講座との連動等）	☐ 補充学習について組織的に取り組んでいる学校(100%)
算数・数学確認テストの実施と活用	☐ 年4回実施。（4月,6月,10月,2月） ☐ テスト前の復習の場の設定やテスト結果の分析等、学校挙げての組織的な取組	☐ 全校・全学年で期待正答率を上回る ☐ 確認テストに係る組織的な取組実施校(100%)
英語確認テストの実施と活用	☐ 年5回実施。（4月,6月,10月,12月,3月） ☐ テスト前の復習の場の設定やテスト結果の分析等、学校挙げての組織的な取組	☐ 確認テストに係る組織的な取組実施校(100%)
町標準学力調査の実施と活用	☐ 小1～中2まで12月に実施。 ☐ 県調査・全国調査の結果を踏まえた取組の検証の場 ☐ 結果を踏まえた年度内の補充学習の実施 ☐ 新年度に向けての学力向上対策策定の際の材料	☐ 全校・全学年で目標値を上回る
生徒指導の3機能を生かした授業の実施	☐ 「自己決定の場」・「自己存在感を与える場」・「共感的人間関係を育む場」を設定した授業づくりの推進	☐ 校内研において、生徒指導の3機能を生かした授業を提案した学校(100%)
家庭学習の充実	☐ 授業とリンクした家庭学習用課題の提示 ☐ 家庭学習の状況を的確に把握する手立ての工夫	☐ 家庭学習の状況把握に組織的に取り組んでいる学校(100%)
I C T活用教育の促進	☐ リーディングD Xスクール指定校（塚脇小・くす星翔中学校）を中核とした教育D Xの推進と協力校（町内小・中、義務教育学校）への横展開 ☐ クロームブックの整備・更新 ☐ I C T支援員の配置 ☐ 児童生徒が主体的、意欲的に取り組む学習の場の設定	☐ 校務にI C Tを取り入れている学校(100%) ☐ クラウド活用をベースとした校内研修を行った学校(100%)

③教職員の授業力の向上

重点的取組（施策）	具体的内容	達成指標（□） 取組指標（■）
町研究指定校の取組の充実	○「教育研究推進校」「特色ある学校づくり推進事業」の指定と公開授業の実施	□教育研究推進校(1校)・特色ある学校づくり推進校(4校)の指定 ■公開授業(1回実施)
授業力向上アドバイザーの活用	○中学校（国語）に1名配置 ○配置校での模範授業の実施 ○他校訪問による経験年数の浅い教員への助言・支援	□模範授業の公開（学期ごとに1回以上） ■他校訪問（1校に3回以上）
校内研修の充実	○教務主任と研究主任の連携と役割分担を明確にした校内研究の推進 ○一般・提案授業や事前・事後研等の工夫と充実 ○中学校における「学びに向かう学校づくり」を目指す校内研究体制の構築 ○指導主事等招聘による校内授業研究会の実施	□指導主事等を招聘した校内研の実施校(100%)
授業観察と互見授業の実施	○視点を明確にした校長の授業観察及び指導 ○定期的な互見授業の実施と意見交換による授業技術の向上	□校長による授業観察を（ほぼ毎日実施した学校(100%) □授業を公開した教職員(100%)
中学校教科部会の充実	○複数の教科担任による「タテ持ち」の実施 ○定期的な教科部会の実施	□「タテ持ち」を実施した教科(5教科)
I C T利活用にかかる研修の充実	○教職員のニーズに応じた町教委主催のI C T研修の実施 ○学校現場ニーズに沿った校内研修の充実	□町教委主催のI C T研修会に参加した教職員(100%) □校内での月一回以上のI C Tミニ研修実施（100%）

④地域住民との協働による教育力の向上と高校までの一貫した学力向上対策

重点的取組（施策）	具体的内容	達成指標（□） 取組指標（■）
積極的な学校公開（公開授業）の実施	○各校、月1回以上の学校公開日の設定と呼びかけや内容の工夫 ○町一斉学校公開月間(11月)の実施	□月1回以上の学校公開日を設定した学校(100%) □学校公開月間中の学校訪問者数（町全体で延べ1000名以上）
コミュニティ・スクールの導入と活用	○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を生かした保護者・地域住民の学校経営への参画	□学校運営協議会設置校(8校)
寺子屋学習の充実	○寺子屋学習の内容の充実（町確認テストで正答率が低い分野の徹底復習） ○夏季休業中等のステップアップ講座と連動した取組の実施	■4小学校での寺子屋学習の実施 ■正答率が低い分野の問題配付
地域と連携した土曜学習の実施	○地域の活動を生かした小学生を対象とした土曜学習の実施	■中央公民館・自治会館・わらべの館等の講座の紹介
玖珠志学塾の実施	○地域に唯一の高校「玖珠美山高校」の生徒を対象とした無料の公営塾「玖珠志学塾」の運営の継続	□利用者アンケート：「満足」という回答（80%以上） ■生徒の希望する進路達成の支援

